

# 経済・金融 フラッシュ

## 中国経済：来週の注目ポイント ～シャドーバンキング監督強化の影響は？

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 来週 8-9 日、中国では景気・物価に関する主要指標が集中発表される予定である（下表）。
- 今回の集中発表では、6 月のシャドーバンキング監督強化が工業生産や固定資産投資にどのような影響を与えたのかに注目している。実体経済に与える影響の多寡は、今回を含むここ数カ月の経済指標で徐々に明らかになると思われるが、今回はその第一弾として注目したい。
- また、7 月の消費者物価は前月よりやや上昇率を高めて前年同月比 2.8% 上昇と予想している。

発表 予定日	経済指標		当研究所の予測値		前回	
				対象期		対象期
8月8日	貿易収支	(百万ドル)	26,247	2013年7月	27,124	2013年6月
	輸出総額	(前年同月比)	2.5%	2013年7月	-3.1%	2013年6月
	輸入総額	(前年同月比)	2.3%	2013年7月	-0.7%	2013年6月
8月9日	工業生産(規模以上、付加価値ベース)	(前年同月比)	8.8%	2013年7月	8.9%	2013年6月
8月9日	小売売上高	(前年同月比)	13.1%	2013年7月	13.3%	2013年6月
8月9日	固定資産投資(除く農家の投資)	(前年同月比)	19.9%	2013年1-7月期	20.1%	2013年1-6月期
8月9日	消費者物価指数	(前年同月比)	2.8%	2013年7月	2.7%	2013年6月

### ① 工業生産〔発表予定日：8月9日(金) 13:30(現地時間)〕

中国国家统计局は9日に7月の工業生産（付加価値ベース、規模以上）を発表する。前回発表の6月は前年同月比8.9%増と前月の伸びを0.3ポイント下回った。春節で統計がぶれる1・2月を除くと8.9%となるのは3回目で、過去2回はいずれも反転上昇している（図表-1）。

シャドーバンキングの監督強化が資金調達面で生産に影響し始める可能性があるのに加え、7月25日には淘汰すべき遅れた生産能力を抱える企業名が公表されたことで対象企業の生産が鈍る可能性が高いことから、7月は6月の伸びを下回るだろうと予想している。

（図表-1）

工業生産(付加価値ベース、規模以上)の推移

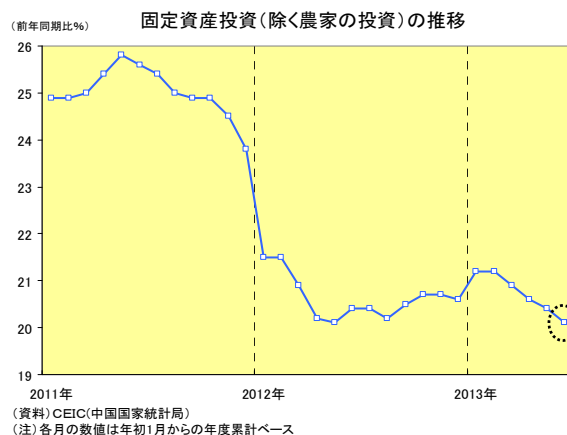


(資料) CEIC(中国国家统计局)のデータを元にニッセイ基礎研究所で作成  
 (注1)規模以上とは本業の年間売上高2000万円(2010年以前は500万円)以上の工業企業  
 (注2)例年1・2月は春節の影響でぶれるため、1・2月は共に2月時点累計(前年同月比)を表示

## ② 固定資産投資〔発表予定日:8月9日(金) 13:30(現地時間)〕

9日には、1-7月期の固定資産投資（除く農家の投資）も同時に発表される予定である。1-6月期は前年同期比20.1%増と1-5月期の同20.4%増を0.3ポイント下回った（図表-2）。6月の銀行融資（人民元建て）は8,605億元と6月の季節性を勘案すれば堅調な伸びだったが、シャドーバンキングを含む社会融資規模は10,375億元と、社債発行の延期などで1-5月期平均レベルの6割弱まで落ちてきた。シャドーバンキングの管理強化は固定資産投資の資金供給源に影響を及ぼしかねないだけに、今回の発表は要注目である。

(図表-2)

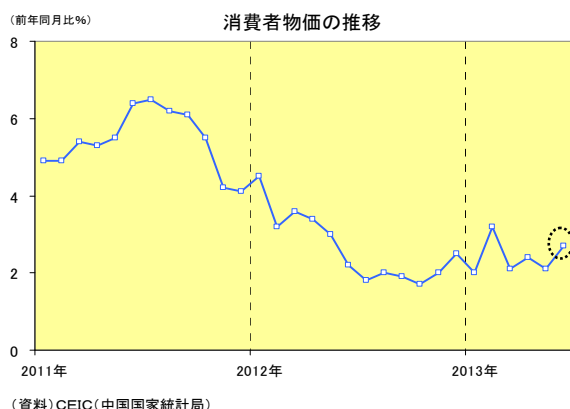


## ③ 消費者物価指数〔発表予定日:8月9日(金) 午前9:30(現地時間)〕

また、9日には7月の消費者物価も中国国家统计局から発表される。6月の消費者物価は、前年同月比2.7%上昇と前月の上昇率を0.6ポイント上回った（図表-3）。6月に消費者物価が上昇したのは、5月に低下した生鮮野菜が6月は前年同月比9.7%上昇となったことが主因である（図表-4）。

7月20日までの生鮮野菜は概ね落ち着いた値動きをしていたが、冬小麦の主産地が大雨や雹などに見舞われて小麦の生産量や品質に対する懸念が高まっており、7月末にかけてはやや上昇する可能性がでてきている。また、7月20日からガソリン・ディーゼル油の価格が引き上げられており、昨年7月の食品価格のレベルが低かったという技術的要素も勘案すると、7月の消費者物価は6月よりやや上昇率を高めて、前年同月比2.8%程度の上昇と予想している。

(図表-3)



(図表-4)

消費者物価(分類別、前年同月比)

年	消費者物価		品目別				消費品(モノ)		サービス
	総合	食品	うち 生鮮野菜	衣類	交通通信	居住	消費品(モノ)	サービス	
									(%)
2012年1月	4.5	10.5	23.0	3.3	0.2	1.9	5.5	2.2	
2012年2月	3.2	6.2	6.5	3.8	0.1	2.1	3.9	1.5	
2012年3月	3.6	7.5	20.5	3.8	0.3	2.0	4.4	1.5	
2012年4月	3.4	7.0	27.8	3.6	0.3	1.8	4.1	1.7	
2012年5月	3.0	6.4	31.2	3.1	▲0.1	1.6	3.6	1.7	
2012年6月	2.2	3.8	12.1	3.3	▲0.4	1.6	2.3	1.9	
2012年7月	1.8	2.4	8.0	3.3	▲0.9	2.1	1.7	2.0	
2012年8月	2.0	3.4	23.8	3.1	▲0.8	2.2	2.1	2.0	
2012年9月	1.9	2.5	11.1	3.4	▲0.2	2.3	1.8	2.3	
2012年10月	1.7	1.8	1.1	2.7	0.1	2.5	1.5	2.3	
2012年11月	2.0	3.0	11.3	2.3	0.0	2.6	1.9	2.3	
2012年12月	2.5	4.2	14.8	1.9	0.0	3.0	2.5	2.5	
2013年1月	2.0	2.9	2.6	2.5	▲0.3	2.9	2.0	2.2	
2013年2月	3.2	6.0	10.0	2.1	0.2	2.8	3.3	3.1	
2013年3月	2.1	2.7	▲10.3	2.3	▲0.3	2.9	1.7	3.1	
2013年4月	2.4	4.0	5.9	2.5	▲1.1	2.9	2.2	2.9	
2013年5月	2.1	3.2	▲1.9	2.5	▲1.2	3.0	1.8	2.8	
2013年6月	2.7	4.9	9.7	2.3	▲0.7	3.1	2.6	2.7	

(資料)CEIC

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。